

都市再生整備計画 事後評価シート
藤沢駅周辺地区

令和3年3月

神奈川県藤沢市

様式2-1 評価結果のまとめ

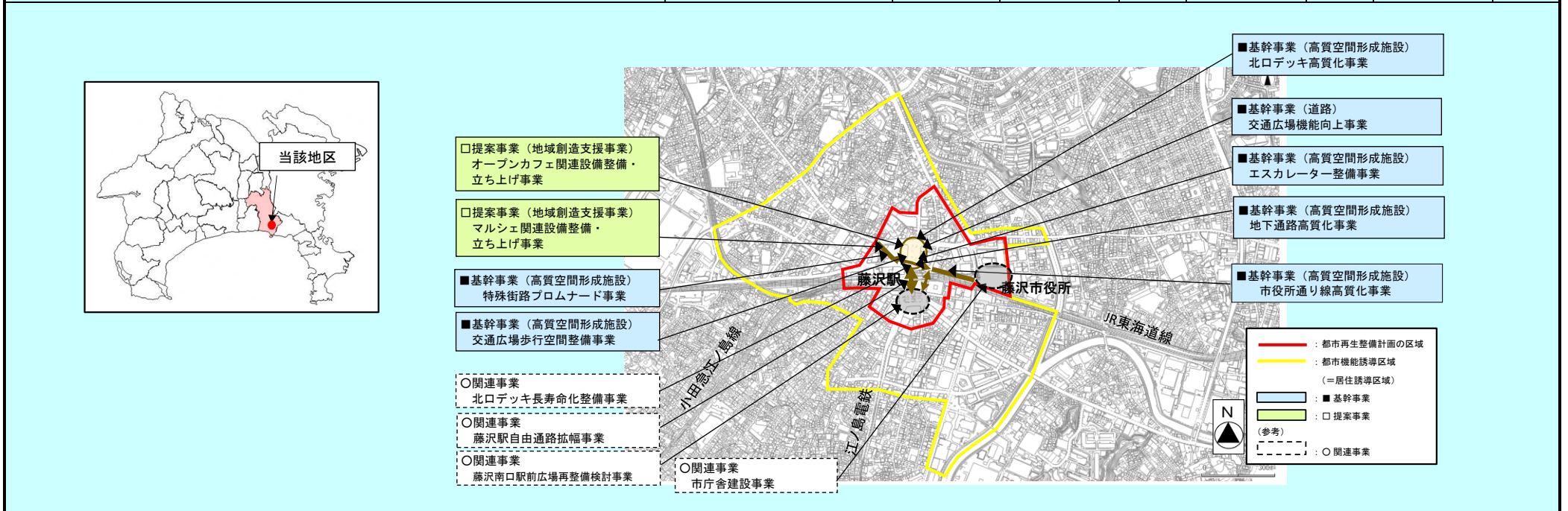
都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	藤沢駅周辺地区			面積	20.5ha				
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1,800百万円		国費率	0.45					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】交通広場機能向上事業 【高質空間形成施設】特殊街路プロムナード事業、北口デッキ高質化事業、交通広場歩行空間整備事業、エスカレーター整備事業、地下通路高質化事業、市役所通り線高質化事業												
		提案事業	【地域創造支援事業】オープンカフェ関連設備整備・立ち上げ事業、マルシェ関連設備整備・立ち上げ事業												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】藤沢駅北口南北線回遊性向上事業 * 第1回変更(H30.1)で追加			用地取得等に向けた検討、協議を進めているが、事業期間中の完了が見込めないため、事業の削除を行い、次期計画以降での実施を検討。			当初計画から、追加、削除したため、指標への影響は生じない。						
		基幹事業	【高質空間形成施設】駅周辺照明灯整備事業			目標や整備方針を再度、精査した結果、事業の削除を行った。			既存施設を最大限活用するため、指標への影響は生じない。						
		提案事業	-			-			-						
	新たに追加した事業	基幹事業	【高質空間形成施設】交通広場歩行空間整備事業			平成29年3月に立地適正化計画を策定し、「駅周辺に回遊させる魅力あるまちづくり」が位置付けられたことから、目標指標である「滞留空間の魅力度」や「歩行者空間の快適度」の達成に向けて、関連事業である「交通広場歩行空間整備事業」を基幹事業として追加した。			指標対象である北口デッキ、特殊街路をつなぐ施設整備のため、間接的にプラス効果が生じる。						
		提案事業	-			-			-						
交付期間の変更	当初	平成28年度～平成32(令和2)年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-								
変更	なし														
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	滞留関連施設利用者数	人/H	基準年度	H27	目標年度	R2	モニタリング	-	評価値	昼:761 夕:616	●	あり	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、魅力ある滞留空間が形成されたことにより、にぎわいが創出されたため。	-
				昼:391 夕:310	22.4	36.3	68.1	●	なし	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、魅力的でシンボル性のある空間が形成されたため。	-				
	指標2	滞留空間の魅力度	%	12.4	H27	22.4	R2	-	57.4	●	あり	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、移動利便性の向上やバリアフリー機能の拡充が行われ、快適に歩ける歩行空間が形成されたため。	-		
指標3	歩行者空間の快適度	%	26.3	H27	36.3	R2	-	68.1	●	あり	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、移動利便性の向上やバリアフリー機能の拡充が行われ、快適に歩ける歩行空間が形成されたため。	-			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	イベント日数	日	基準年度	H27	目標年度	/	モニタリング	-	評価値	16	/	北口デッキ等の整備やエリアマネジメント関連の立ち上げ事業等により、良質な滞留空間が形成されたため。	-	
				朝:686 昼:345 夕:331	H24	/	/	/	/	北口デッキ東側の階段を取り壊し設置したエスカレーター整備事業及び市役所通り線高質化事業等により、安全で快適な歩行空間が形成されたため。	-				
その他の数値指標2	歩行者交通量(北口デッキ東側)	人/H	朝:686 昼:345 夕:331	H24	/	/	-	朝:839 昼:699 夕:867	/	/	/	北口デッキ東側の階段を取り壊し設置したエスカレーター整備事業及び市役所通り線高質化事業等により、安全で快適な歩行空間が形成されたため。	-		

4) 定性的な効果 発現状況	<p>・北口デッキ高質化事業により、駅と地上レベルを結ぶ昇降施設が設置され、バリアフリー動線による時間短縮や選択するルートにより道路横断回数が減少するなど安全性が向上した。</p> <p>・オープンカフェやマルシェといったエリアマネジメント関連の立ち上げ事業により、エリアマネジメント組織の醸成に寄与した。地域主体の活動が継続的に行われることにより、より一層のにぎわい創出が期待できる。</p>			
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況	今後の対応方針等
	モニタリング	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-
	住民参加 プロセス	地下通路高質化事業に関して、計画作成前に課題や期待等を確認するアンケートを実施するとともに、藤沢駅東西地下通路リニューアル計画の策定にあたり、市民意見公募(パブリックコメント)を実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● アンケート結果やパブリックコメントで提出された意見等を踏まえ、リニューアルの基本的な考え方や整備の方向性を示した計画を策定するとともに、実際に工事を進める際の参考とした。
	持続的なまちづくり 体制の構築	平成28年からエリアマネジメントに関する勉強会を実施し、令和元年6月には設立準備会に発展した。 組織設立に向けて組織の形態や収支の見直しに関する検討を進めるとともに、公共空間活用の社会実験を実施し、令和元年12月に「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を立ち上げた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● 持続的にエリアマネジメントを推進できるよう、公共空間管理と合わせ指定管理者が主体的に、にぎわい創出に向けた活動をするともに、市もアドバースなど必要な支援をしていく。

様式2-2 地区の概要

藤沢駅周辺地区(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 藤沢の玄関口にふさわしい、にぎわいや交流を創出し、周辺地域へつなぐ駅前づくり 小目標① 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出 小目標② 交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出	滞留関連施設利用者数	単位:人/H	昼:391 夕:310	H27	昼:431 夕:341	R2	昼:761 夕:616	R2
	滞留空間の魅力度	単位:%	12.4	H27	22.4	R2	57.4	R2
	歩行者空間の快適度	単位:%	26.3	H27	36.3	R2	68.1	R2
	イベント日数	単位:日	7	H27	-	-	16	R2
	歩行者交通量(北口デッキ東側)	単位:人/H	朝:686 昼:345 夕:331	H24	-	-	朝:839 昼:699 夕:867	R2



まちの課題の変化

- ・藤沢駅北口の駅前整備は概ね完了したが、藤沢駅南北及び周辺地域全体での回遊性や連携の強化が残されている。
- ・街の魅力向上に向け、公共空間整備から駅周辺の民間施設更新への波及が求められている。
- ・駅及び駅周辺の回遊及び交流の核づくりに向け、今後は南口の駅前広場整備が課題となる。
- ・北口デッキや特殊街路の高質化として整備後、にぎわい創出に向けたエリアマネジメント等の取組が行われていたが、コロナ禍の影響もあるため、今後は新たな生活様式に配慮したイベント開催等を検討する必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・駅周辺のさらなる回遊性の強化や活性化のため、自転車駐車場の整備や自転車走行空間の整備により、回遊性の強化を図るとともに、歩行者空間の安全性の向上など環境改善を図る。
- ・藤沢駅北口南北線の拡幅整備により、藤沢駅周辺の一体的な回遊性を強化する。
- ・鉄道事業者等との調整を行い、藤沢駅の改良及び自由通路の拡幅整備を実施し、藤沢駅南北の連携強化や鉄道3線の円滑な乗換え、湘南の玄関口としての魅力向上を図る。
- ・誰もが利用しやすい藤沢駅とするため、藤沢駅南口の交通広場の機能向上や歩行空間の改善、バリアフリーを推進するとともに、まちの玄関口として、滞留空間の整備など魅力向上を図る。
- ・駅周辺の活性化に向け、公共施設整備と連携した民間施設更新の促進を図る。
- ・整備された公共空間を活用し、引き続きエリアマネジメントの促進を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	交通広場機能向上事業	180	A=5,700㎡	51.2	A=5,700㎡	令和2年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-
道路	藤沢駅北口南北線整備事業	273	L=50m、W=9m	-	-	平成29年3月に立地適正化計画を策定し、「駅周辺に回遊させる魅力あるまちづくり」が位置づけられたことから、関連事業に位置付けていた「藤沢北口南北線整備」を基幹事業として追加したが、用地取得等に向けた検討、協議を進めるなかで、事業期間中の完了が見込めないため、事業の削除を行い、次期計画以降での実施を検討するもの。	影響なし	-	-
高質空間形成施設	特殊街路プロムナード事業	83	L=90m、W=12m	57.5	L=90m、W=12m	平成28年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	北口デッキ高質化事業	1851	A=3,600㎡	924.5	A=3,600㎡	完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	交通広場歩行空間整備事業	80	A=3,150㎡	57.9	A=3,150㎡	平成29年3月に立地適正化計画を策定し、「駅周辺に回遊させる魅力あるまちづくり」が位置づけられたことから、目標指標である「滞留空間の魅力度」や「歩行者空間の快適度」の達成に向けて、関連事業である「交通広場歩行空間整備事業」を基幹事業として追加した。	指標対象である北口デッキ、特殊街路をつなぐ施設整備のため、間接的にプラス効果が生じる。	●	-
高質空間形成施設	エスカレーター整備事業	450	3基	142.3	1基	当初3基の整備を計画していたが、事業効果を整理し、1基としたため減額を行うもの。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	地下通路高質化事業	459	L=120m、W=8m	455.2	L=120m、W=8m	令和2年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	-	●
高質空間形成施設	市役所通り線高質化事業	180	L=300m、W=15m	107.2	L=300m、W=15m	平成28年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	駅周辺照明灯整備事業	36	30基	-	-	整備方針を再検討した結果、事業の削除を行った。	影響なし	-	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	オープンカフェ関連設備整備・立ち上げ事業	10	特殊街路を高質空間として整備後、憩い・にぎわいの空間として市民・来街者に認知され、かつ継続的に活用されるよう、エリアマネジメントを用いて運営する際のメイン企画となるオープンカフェ等を立ち上げるための設備整備等を行う。	2.5	特殊街路を高質空間として整備後、憩い・にぎわいの空間として市民・来街者に認知され、かつ継続的に活用されるよう、エリアマネジメントを用いて運営する際のメイン企画となるオープンカフェ等の立ち上げ時のにぎわい創出イベントを行う。	令和2年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-
	マルシェ関連設備整備・立ち上げ事業	20	北口デッキを高質空間として整備後、憩い・にぎわいの空間として市民・来街者に認知され、かつ継続的に活用されるよう、エリアマネジメントを用いて運営する際のメイン企画となるマルシェ等を立ち上げるための設備整備等を行う。	2.5	北口デッキを高質空間として整備後、憩い・にぎわいの空間として市民・来街者に認知され、かつ継続的に活用されるよう、エリアマネジメントを用いて運営する際のメイン企画となるマルシェ等の立ち上げ時のにぎわい創出イベントを行う。	令和2年度完了事業における事業費精査のため減額を行うもの。	影響なし	●	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市庁舎建設事業	-	-	18,000	18,000	平成26年度～平成29年度	平成26年度～平成29年度	平成29年12月に市庁舎が竣工	
北口デッキ長寿命化整備事業	-	-	50	50	平成26年度～平成29年度	平成26年度～平成26年度	平成26年度完了	コンクリート調査等
藤沢駅自由通路拡幅事業	-	-	20,000	20,000	平成26年度～平成32年度	平成26年度～令和2年度	予定どおり進捗	次期計画の基幹事業に位置付け
藤沢南口駅前広場再整備検討事業	-	-	100	100	平成27年度～平成30年度	平成27年度～平成30年度	平成30年度完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度		モニタリング	事後評価	達成度	あり	なし		
指標1	滞留関連施設利用者数	人/H	北口デッキ滞留関連施設周辺及び特殊街路の平日昼、夕の各1時間における利用者数及び滞留人数の合計値を計測する。	-	-	昼:391 夕:310	H27	昼:431 夕:341	R2	モニタリング		モニタリング		-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	昼:761 夕:616	事後評価	○	
指標2	滞留空間の魅力度	%	北口デッキの利用者(市民等)及び藤沢駅周辺事業者(商工会議所等)へのアンケートを実施し、北口デッキ・特殊街路の魅力について「そう思う」「やや思う」の回答割合の合計値を算出する。	-	-	12.4	H27	22.4	R2	モニタリング		モニタリング		-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	57.4	事後評価	○	
指標3	歩行者空間の快適度	%	北口デッキの利用者(市民等)及び、藤沢駅周辺事業者(商工会議所等)へのアンケートを実施し、北口デッキ・特殊街路の歩きやすさについて「そう思う」「やや思う」の回答割合の合計値を算出する。	-	-	26.3	H27	36.3	R2	モニタリング		モニタリング		-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	68.1	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	北口デッキにおけるベンチ等休憩施設や人工芝の整備、特殊街路における休憩施設の整備により、魅力ある滞留空間・交流拠点が創出され、滞留関連施設利用者数が増加し、目標値を上回ったため、目標達成度を○とした。	コロナ禍での滞留計測であること、また計測値が平日1日での計測であり、達成度の判断が難しい点があったが、整備前に比べ、幅広い世代の利用が見られ、魅力が向上したと判断した。
指標2	北口デッキにおけるベンチ等休憩施設や人工芝の整備、特殊街路における休憩施設の整備により、魅力ある滞留空間・交流拠点が創出され、市民等の滞留空間の魅力度が増進し、目標値を上回ったため、目標達成度を○とした。	-
指標3	北口デッキ及び特殊街路の舗装の高質化や昇降施設の設置により、交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間が創出され、市民等の歩行者空間の快適度(歩きやすさ)が増進し、目標値を上回ったため、目標達成度を○とした。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	イベント日数	日	北口デッキや特殊街路において、1年間で開催されたイベント日数を確認する。	-	-	7	H27	モニタリング			北口デッキ等の整備やエリアマネジメント関連の立ち上げ事業等の効果として、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出(目標)を表している指標にふさわしいと考えるため。	-
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	歩行者交通量(北口デッキ東側)	人/H	北口デッキから市役所通り線へ向かうエスカレーターにおいて、平日朝昼夕の各2時間のうちピーク1時間における歩行者交通量の計測を行う。また、平成24年に実施した交通量調査における階段(当時)利用者数を従前値とする。	-	-	朝: 686 昼: 345 夕: 331	H24	モニタリング			北口デッキ東側の階段を撤去し設置したエスカレーター及び市役所通り線等の整備により、快適な歩行者動線の確保が図られたことから、整備に伴う効果として、交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出(目標)を表している指標にふさわしいと考えるため。	デッキ全体の利用者量の把握ができていないため、利用者の全体量が増えているのか、動線が変わったのかの割合までは判断できなかったが、快適な移動が可能となった利用者が増えたという点で効果があったと判断した。
								事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・北口デッキ高質化事業により、駅と地上レベルを結ぶ昇降施設が設置され、バリアフリー動線による時間短縮や選択するルートにより道路横断回数が減少するなど安全性が向上した。
 ・エリアマネジメント関連の立ち上げ事業により、エリアマネジメント組織の醸成に寄与した。地域主体の活動が継続的に行われることにより、より一層のにぎわい創出が期待できる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	-	-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地下通路高質化事業に関して、計画作成前に課題や期待等を確認するアンケートを実施するとともに、藤沢駅東西地下通路リニューアル計画の策定にあたり、市民意見公募(パブリックコメント)を実施した。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】各1回</p> <p>【実施時期】アンケート 平成29年11月(地下通路の通行人に対し配布) (駅南口駅前広場のアンケートと同時に実施)</p> <p>パブコメ 令和元年7月2日~7月31日</p> <p>【実施結果】アンケート:3,053票回収、パブコメ:7人、16件の意見が提出された。特に安全・安心な空間づくりや交通情報などの案内等に関する意見、要望が多く、閉鎖的な空間から明るく、誰もが楽しめ、快適に安心して歩けるような空間整備等を求める意見があった。</p>	アンケート結果やパブリックコメントで提出された意見等を踏まえ、リニューアルの基本的な考え方や整備の方向性を示した計画を策定するとともに、実際に工事を進める際の参考とした。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
都市再生整備計画事業により整備した北口デッキ及び特殊街路において、藤沢駅周辺地区の魅力発信及び藤沢駅前広場の付加価値を高めることを目的とした広場条例を制定した。 その広場において、民間のノウハウを活用し、にぎわい創出及び質の高い管理を目指すために指定管理者制度を導入することとし、「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を令和3年4月からの指定管理者の候補者として選定した。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>平成28年からエリアマネジメントに関する勉強会を実施し、令和元年6月には設立準備会に発展した。組織設立に向けた検討を進めるとともに、公共空間活用社会実験を実施し、令和元年12月に「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を立ち上げた。</p> <p>現在は、エリアマネジメント組織だけでなく、周辺の商店や市民、様々な事業者を含めた定期的なワークショップを開催するなど、より良いエリアマネジメントとなるよう取り組んでいる。</p>	<p>一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント:藤沢駅周辺地区において、にぎわい創出や交流の促進等、公共空間を活用したまちづくり活動を行い、この地域の価値を高め、多様な人々がひきつけられる場を目指し、まちの活性化に寄与することを目的に設立。</p> <p>(構成員)地元経済団体、鉄道事業者、地元事業者、金融機関など正会員7者、準会員2者、賛助会員1者</p>	持続的にエリアマネジメントを推進できるよう、公共空間管理と合わせ指定管理者が主体的ににぎわい創出に向けた活動をするとともに、市もアドバイスなど必要な支援をしていく。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集集中支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行財政改革推進課長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路河川総務課長、下水道総務課長、藤沢駅周辺地区整備担当参事	第1回 令和2年11月17日(火) 第2回 令和3年3月(予定)	計画建築部建設総務課 都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3			
指標名		滞留関連施設利用者数	滞留空間の魅力度	歩行者空間の快適度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(交通広場機能向上事業)	-	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、魅力ある滞留空間が形成され、にぎわいが創出された。	-	北口デッキ高質化事業及び特殊街路プロムナード事業等により、移動利便性の向上やバリアフリー機能の拡充が行われ、快適に歩ける歩行空間が形成された。	-	
	高質空間形成施設事業(特殊街路プロムナード事業)	◎		◎			
	高質空間形成施設事業(北口デッキ高質化事業)	◎		◎			
	高質空間形成施設事業(交通広場歩行空間整備事業)	○		○			
	高質空間形成施設事業(エスカレーター整備事業)	○		○			
	高質空間形成施設事業(地下通路高質化事業)	-		-			
	高質空間形成施設事業(市役所通り線高質化事業)	-		-			
提案事業	【地域創造支援事業】オープンカフェ関連設備整備・立ち上げ事業	○	○	-		-	
	【地域創造支援事業】マルシェ関連設備整備・立ち上げ事業	○	○	-		-	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した施設について、適切な維持管理を行うとともに、市民等の利活用を促進させ、湘南の玄関口としてふさわしい空間の維持・向上に努める。	整備した施設について、適切な維持管理を行うとともに、市民等の利活用を促進させ、湘南の玄関口としてふさわしい空間の維持・向上に努める。	整備した施設について、適切な維持管理を行い、歩行者の移動利便性の維持・向上に努める。	
-------	--	--	--	--

指標の種別		その他指標1	その他指標2						
指標名		イベント日数	歩行者交通量 (エスカレーター利用者数)						
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(交通広場機能向上事業)	-	北口デッキ等の整備やエリアマネジメント関連の立ち上げ事業等により滞留空間が形成された。	○	エスカレーター整備事業及び市役所通り線高質化事業等により、安全で快適な歩行空間が形成された。				
	高質空間形成施設事業(特殊街路プロムナード事業)	◎		-					
	高質空間形成施設事業(北口デッキ高質化事業)	◎		○					
	高質空間形成施設事業(交通広場歩行空間整備事業)	○		○					
	高質空間形成施設事業(エスカレーター整備事業)	○		◎					
	高質空間形成施設事業(地下通路高質化事業)	-		○					
	高質空間形成施設事業(市役所通り線高質化事業)	-		◎					
提案事業	【地域創造支援事業】オープンカフェ関連設備整備・立ち上げ事業	◎		-					
	【地域創造支援事業】マルシェ関連設備整備・立ち上げ事業	◎		-					

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した施設について、適切な維持管理を行うとともに、エリアマネジメント組織等によるイベントの実施を継続的に推進し、にぎわいの更なる創出に努める。	整備した施設について、適切な維持管理を行い、歩行者の移動利便性の維持・向上に努める。		
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	道路事業(交通広場機能向上事業)												
	高質空間形成施設事業(特殊街路プロムナード事業)												
	高質空間形成施設事業(北口デッキ高質化事業)												
	高質空間形成施設事業(交通広場歩行空間整備事業)												
	高質空間形成施設事業(エスカレーター整備事業)												
	高質空間形成施設事業(地下通路高質化事業)												
	高質空間形成施設事業(市役所通り線高質化事業)												
提案事業	【地域創造支援事業】オープンカフェ関連設備整備・立ち上げ事業												
	【地域創造支援事業】マルシェ関連設備整備・立ち上げ事業												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集中支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行財政改革推進課長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路河川総務課長、下水道総務課長、藤沢駅周辺地区整備担当参事	第1回 令和2年11月17日(火) 第2回 令和3年3月	計画建築部建設総務課 都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
都市施設の老朽化・陳腐化や街の求心力の低下、駅及び駅周辺の交流の核づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地下通路や北口デッキの高質化により、藤沢駅の玄関口としてふさわしい魅力的なシンボル性のある空間が形成された。 憩い、待ち合わせ等のための滞留空間が整備されたことにより、来街者の滞留しやすさが向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅及び駅周辺の回遊及び交流の核づくりと駅周辺施設の更新に向け、今後は駅南口の整備が課題となる。 まちの魅力向上に向け、公共空間整備から駅周辺の民間施設更新への波及が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> にぎわい創出に向けたエリアマネジメント等の取組が行われたが、コロナ禍の影響もあるため、今後は新たな生活様式に配慮したイベント開催を検討する必要がある。 コロナ禍及びその後を含め、従前と違うまちづくり、都心のあり方等を検討する必要がある。
藤沢駅前の再活性化に向け、駅から駅周辺へにぎわいを波及させる取組	<ul style="list-style-type: none"> 滞留空間・交流拠点が形成され、オープンカフェやマルシェなどのエリアマネジメント活動等によるイベント開催により、新たなにぎわいが創出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢駅北口の駅前整備は概ね完了したが、周辺地域全体での回遊性や連携の強化が残されている。 	
都市施設における憩い・にぎわい創出を促進する機能の拡張・強化、ユニバーサルデザイン化等の取組	<ul style="list-style-type: none"> 北口デッキや交通広場の高質化により、移動利便性の向上やバリアフリー機能の拡充が行われ、安全・快適な歩行空間が形成された。 滞留空間での利用者が増加し、にぎわいが創出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅北口駅前広場に続き、南口駅前広場の整備が求められている。 	
藤沢駅の利便性向上と駅前から出やすくする南北連携強化等の質・機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 北口デッキの高質化やエスカレーター、エレベーターの設置により利便性及び回遊性が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道事業者等と連携した、駅からまちへの歩行動線の改良等、南北連携のさらなる強化が残されている。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅周辺のさらなるにぎわいの創出	・公共空間を活用したエリアマネジメントの促進	・エリアマネジメント組織によるイベントの開催等
	安全・快適な歩行空間の活用	・安全性の高い道路環境の整備 ・放置自転車等の防止対策	・駅周辺自転車走行空間の整備 ・自転車駐車場の整備

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	藤沢駅の利便性向上及び南北連携強化	・魅力的でシンボル性のある、湘南・藤沢の玄関口としてふさわしい空間づくり	・藤沢駅南北自由通路の拡幅整備 ・藤沢駅南口駅前広場の改良 ・藤沢駅の改良
	周辺地域全域での回遊性や連携の強化	・北口地区の回遊動線の強化	・藤沢駅北口南北線の整備
	民間施設更新への波及	・駅周辺の活性化に向け、公共施設整備と連携した民間施設更新の促進	・藤沢駅前周辺の基本的な考え方や施設更新の誘導策等のガイドラインの作成

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			昼	夕	年度	年度	確定	見込み		昼	夕	予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	滞留関連施設利用者数	人/H	昼:391	夕:310	H27	昼431人/H 夕341人/H	R2	確定 ●	昼:761 夕:616	○	あり	-	-	-	-	
			見込み					なし	-							
指標2	滞留空間の魅力度	%	12.4		H27	22.4%	R2	確定 ●	57.4	○	あり	-	-	-	-	
			見込み			なし		-								
指標3	歩行者空間の快適度	%	26.3		H29	36.3%	R2	確定 ●	68.1	○	あり	-	-	-	-	
			見込み			なし		-								
その他の数値指標1	イベント日数	日	7		H27			確定 ●	16				-	-	-	-
その他の数値指標2	歩行者交通量 (北口デッキ東側)	人/H	朝:686	昼:345	H24			確定 ●	朝:839 昼:699				-	-	-	-
			夕:331			見込み	夕:867									

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	計画していた各事業が完了したことにより、各指標の数値目標が達成された。	事業同士が相乗的に効果を発揮しあうよう事業を設定する。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	基幹事業と指標が整合しており、事業の効果がわかりやすく現れた。	今後もまちづくりの目標と事業の関係を見極め、事業の効果を適切に計測できる指標を設定する。
	うまくいかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	事業の計画前にアンケート調査を実施することで、市民の意見を事業に取り入れることができた。	地域主体のまちづくり体制による藤沢駅周辺のにぎわい創出を図る取組を推進する。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	今後のまちづくりの目標と事業の関係を見極め、事業の効果を的確に判断できる目標値を設定する。
	うまくいかなかった点	当初設定した目標値の的確性の根拠を明確にすべきだった。	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

藤沢駅周辺地区 : 都市再生整備計画(第2期)を実施予定(令和3年度～令和7年度)
 藤沢本町地区 : 令和3年度に事後評価を実施予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	令和2年12月8日(火)～ 令和3年1月8日(金)	令和2年12月8日(火)～ 令和3年1月8日(金)	広報紙への掲載により周知し、所管課窓口や市民センター等での閲覧、市ホームページでの掲載により公表する。	計画建築部建設総務課、都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当
広報掲載・回覧・個別配布	広報紙に市のホームページ及び所管課窓口で原案を公表している旨を掲載	令和2年11月25日発行 (広報ふじさわ11月25日号)	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	所管課窓口や市民センター等での閲覧	令和2年12月8日(火)～ 令和3年1月8日(金)	令和2年12月8日(火)～ 令和3年1月8日(金)		

住民の意見	<p>・藤沢駅の北口はきれいになったけれど、南口は一切変わっていない。自由通路が拡幅されるという話を聞いたが一体いつになるのか。南口にはエスカレーターもなく不便である。</p> <p>・北口のデッキでは、いくつかイベントが開催されている。せっかくきれいになったので、コロナの状況はあるが、有効活用して、元気な明るい街にしてほしい。</p> <p>・私は、この「都市再生整備計画」での、村岡新駅の新設誘致に反対です。大船ー藤沢わずか4分の距離の間に新たな駅を作るのが市民への本当のサービスとは考えられません。長期化するCovid19で市民、県民、国民が疲弊するなかで、総額400億円という巨額事業は、福祉の精神に真っ向から反していると考えます。かつ、藤沢市の本年度予算の不足(60億円以上)を考えても、無謀で無責任な政策だと思えます。限られた財政は、医療支援、生活支援、教育支援、中小業者支援等に先ず使うべきだと思えます。</p>
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	明星大学 名誉教授 木下瑞夫氏 文教大学 教授 石田晴美氏	令和3年2月17日	計画建築部建設総務課、都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当	藤沢市都市構造再編集 中支援事業費補助事後 評価委員会設置要綱	なし
その他の委員	一般社団法人インクルージョンネットかながわ 代表理事 川崎あや氏 藤沢商工会議所 専務理事 竹村裕幸氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	滞留施設利用者数等の測定に関しては、平日1日というのは少なかった。コロナ禍ということもあり、数値だけでの判断は難しく、定性的な部分のコメントを追加すべきと指摘があったため、添付様式2-①特記事項に追記した。
	成果の評価	成果の目標値について、単純に10%アップでにぎわいが創出されたというのではなく、根拠をもった目標値を設定すべきだったとの意見があったため、添付様式6その他に追記した。
	実施過程の評価	エリアマネジメント組織について、現在の活動状況及び今後の活動方針等について記載すべきと指摘があったため、添付様式3-③取組内容に追記した。
	効果発現要因の整理	歩行者交通量について、単純に増加しただけでなく、動線の変化の可能性について指摘があったため、添付様式2-②特記事項に追記した。
	事後評価原案の公表の妥当性	パブリックコメントを実施しており、妥当と認められた。
	その他	その他の数値指標2について、整備前後を表す指標として、表現が分かりづらいとの意見があったため、指標名を修正した。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当と認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	コロナ禍及びその後を含め、従前と違うまちづくり、都心のあり方について議論をしていくべきとの意見があったため、添付様式5-②新たな課題に追記した。 駅前が様々な人の居場所となれるような空間にしていくべきとの意見があった。 今後の公共空間整備にあたっては、エリアマネジメント等による地域のにぎわいや今後の活性化を考慮した整備を進めていくべきとの意見があった。
	フォローアップ	エリアマネジメントについて、引き続き円滑に実施されていくよう意見があった。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当と認められた。
その他	にぎわいや交流の創出に向け、整備計画の効果はあり、今後も公共空間整備は必要であると総括された。一方、今後の都市やコミュニケーションのあり方を議論し、withコロナの時代についても考慮する必要があるとの意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	
--------	--